

月刊学校教育相談

編集・学校教育相談研究所

月刊学校教育相談

特集
2

アジアの包括的生徒指導から学ぶヒント

特集
1

日々の自分を支える、「この言葉



ほんの森出版

昭和62年10月12日第3種郵便物認可 2018年1月1日発行 毎月1回1日発行 第32巻第1号

定価800円 本体741円

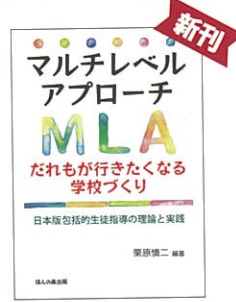
MILA マルチレベル アプローチ

だれもが行きたくなる学校づくり

日本版包括的生徒指導の理論と実践 **栗原慎二** 編著

マルチレベルアプローチは、日本の教育状況を踏まえた「体系的で包括的な生徒指導の実践プログラム」です。各地の自治体や学校で取り入れられ、不登校・暴力行為・いじめの減少、学力の向上を実現しています。

「問題行動への後追い指導で疲弊する学校」を、「教師が教育への誇りと自信をもって熱く協働する学校」へと変えるマルチレベルアプローチ。本書で、その理論と実践を学んでみませんか。



2,300円+税

ご注文は、書店でお取り寄せいただくか、直接小社に電話やFAX、ホームページから(送料1冊100円で、すぐに直送)。本書のより詳しい内容は、ホームページ(<http://www.honnomori.co.jp>)をご覧ください。

Tel 03-5754-3346
Fax 03-5918-8146

ほんの森出版

〒145-0062
東京都大田区北千束 3-16-11

大好評の菅野 純の本をご紹介します！



子どものころを育てる「ひとこと」探し

「教育の言葉」を磨くためのヒントや、実際に子どもが励まされ、元気づけられた「ひとこと」がいっぱいです。クラス全員をいっぺんに抱きしめるような「ひとこと」を！

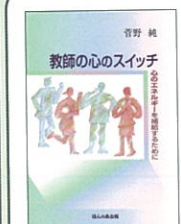
1,600円+税



子どもの問題と「いまできること」探し

すぐキレる子、理解しがたい言動で教師を振りまわす子、協力関係をつくるのが難しい保護者など、多くの先生方が抱えている切実な悩みに「いまできる」確かな提案が満載！

1,600円+税



教師の心のスイッチ

心の奥底にやさしく染み込む「読むサプリメント」
心のエネルギーを補給するために

1,600円+税

複雑で多岐に渡り、多忙で負担の多い学校の仕事
…先生方に心のエネルギーを注ぐスイッチは大丈夫でしょうか？

ご注文は、書店でお取り寄せいただくか、直接小社に電話やFAX、ホームページから(送料1冊100円で、すぐに直送)。本書のより詳しい内容は、ホームページ(<http://www.honnomori.co.jp>)をご覧ください。

Tel 03-5754-3346
Fax 03-5918-8146

ほんの森出版

〒145-0062
東京都大田区北千束3-16-11

雑誌 13433-1



4910134330187
00741

「啐啄同時」

子どもたちの気持ちのズレを感じたときにこの「啐啄同時」という言葉をかみしめます。

愛知県刈谷市立朝日中学校教諭
神谷 和宏

かみや かずひろ コーピングやカウンセリングを学び、現在各地で教育コーチングを行っています。教育委員会や学校の現場教育の研修の講師を務めることもあります。

熱血漢だけでは子どもは動かない

教師活動を続けるなかで、教師の思いと子どもの思いのズレに悩まされたことが何度もありました。皆さんも、学級活動や部活動の指導などで、教師の思いと子どもの思いがどうも噛み合っていないと感じたことはありませんか？
私は、そんなときに「啐啄同時」という言葉に出会いました。これは、禅の世

界からきている言葉です。子どもたちの気持ちのズレを感じたときにこの言葉をかみしめます。

啐啄同時の「啐」とは、卵からヒナ鳥が孵るときに内側から殻をコツコツとつづくことを言います。そして、「啄」とは親鳥が外側から卵の殻をコツコツとつづくことです。ヒナ鳥の力だけでは殻を割ることができず、親鳥の力がないとそのまま死んでしまうそうです。ヒナ鳥の殻を破りたいというタイミングと、親鳥の

出してあげようという絶妙なタイミングが一致したときに、初めて殻が割れて新しい生命が誕生すると言います。

また、野鳥でも巣立ちの瞬間に「啐啄同時」と同様なことがあるようです。親鳥はヒナ鳥に十分に餌をとり自活していく能力が備わったとみると、巣立ちを促します。ヒナ鳥もこれに応じて巣から飛び出していきます。禅の世界では、「ヒナ鳥と親鳥」の関係を「弟子と師匠」に置き換えて考えています。

学校生活では、「教師」と「子ども」の関係に通じるものがあります。部活動で顧問として熱血指導しても、子どもに上手になりたい、強くなりたいという思いがなければ空回りしてしまいます。そこ

で教師の熱い思いと、子どもの上手になりたいという気持ちの同調が先になってくるのです。そのためには、教師はまず「どうしたら、子どもの気持ちを高められるだろうか？」「そのために、今できることは何だろうか？」と、ここに力を注ぐこととなります。

学ぼうとする意欲のない者には、教える効果は期待できません。また、教える者の指導に適切さを欠いていれば、同じように効果をあげることができません。両者がともに揃い、しかも適切さを備えていて初めて教育の効果が現れるのです。教師からの一方通行ではなく、教師と子どもの双方向的な行為にするために、常日頃から「教育とは何か」「自分は子どもに何ができるのか」を問い続けたいと考えています。

「なんともならないこと」
に心を奪われたい

そして、もう一つ心に留めている言葉があります。それは「なんともならないこと」に心を奪われたいです。世の中には「自分の力で解決できること」と「自

分の力ではなんともならないこと」の二種類のことがあると考えています。

私は小学生のときに、とてもかわいがっていた愛犬の「コロ」がいました。ある日、学校から帰ってみると、コロは弱っていて食事もとれず、そしてその夜、この世を去りました。私は悲しくて一週間くらい何もする気が起きなかったことを今でも覚えています。

そのようなことは、これからもあるでしょう。例えば、「愛する人が突然この世を去ってしまった」というようなことです。私たちが取り巻く社会問題でも、「巨大地震の発生」「世界的なエネルギー問題」などなど。自分の力では簡単に解決できないことが、この世にはいくつもあります。そんなときはあきらめたり、気持ち沈み込んでしまいがちですが、落ち込んで事態が変化することはないでしょう。

私の場合も、愛犬のことをいつまで悲しんでいても、愛犬が戻ることはありません。「なぜコロは死んでしまったのか？」などと悩んでも正解は見つかりません。しかし頭の中では、いつまでも答

えを探し続けます。そして、結局答えが見つからず、疲れ果ててしまいます。

先日もこんなことがありました。この原稿を保存していたUSBメモリーが突然クラッシュし、それまで書いていた原稿がすべて消えてしまったのです。USBメモリーを恨んでも、元には戻りません。頭にきて「もうだめだ」と周囲に不満を漏らしても、落ち込んでみても仕事が遅れるだけです。

ですから、この場合の正しい対処方法は「なんともならないことは早く忘れること」です。常に、「課題を解決するような癖をもつ」ことです。「なんでこうなったの？」と原因ばかりにしがみつくとではなく、「だからどうする？」と考えるのです。

子どもたちも、負けてしまった試合や、できなかった試験をいつまでも悔やんでいたり、引きずっている場合があります。自省を込めて、「物事を達成できる人はほとんどん頭を切り換えて、達成への道を選択し続けているよ。顔色ひとつ変えず、次の選択肢へ移行していこう」と伝えていきます。

